

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価（3月17日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着を図る「学び直し」から、自ら考え判断し表現する力までを育み、普通科と美術科が相互に刺激し高め合うとともに持続可能な教育課程を編成、実施する。</p> <p>②「育みたい生徒像」を実現し、個に応じた学力を育成するためのICT活用を進め、組織的な授業改善を行う。</p> <p>③学校行事等とおして、協働する力を育む。</p>	<p>①確かな学力の定着と教育の「質」を高める授業改善を進める。</p> <p>②一人一台端末に対応した授業方法を発展する。また、図書館の利用を促し、生徒の読書活動を推進する。</p> <p>③体育祭、文化祭、球技大会、生徒総会等の各学校行事について、生徒が主体的に企画運営できるように支援する。また、生徒が積極的に参加できるように努める。</p>	<p>①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行う。</p> <p>②ICT機器を効果的に使用するための情報発信を行う。また、図書館と各教科等の連絡を密にし、生徒が活字に親しむ機会を増やす。</p> <p>③生徒会本部役員とコミュニケーションをとりながら各学校行事の目標と評価の観点を設定し、関係する委員会や部活動、有志と連携を図りながら、設定した目標の実現に向けた企画運営を行う。</p>	<p>①インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行うことができたか。</p> <p>②ICT機器を効果的に使用した授業が行えたか。図書館の利用機会が増えたか。</p> <p>③-1 生徒会本部や委員会、部活動、有志において生徒全体のニーズや要望に応えた活動ができたか。また、活動を通じて生徒自身が達成感、満足感を感じることができたか。</p> <p>③-2 各学校行事への参加率や生徒の達成感、満足感を高めることができたか。</p>	<p>①生徒による授業評価「授業のはじめにねらいを示している」の項目で、各教科概ね8～9割で肯定的な回答を得た。</p> <p>②一人一台端末に対応した授業方法としてパワーポイント、クラスルーム、ロイロノート等を活用した授業が浸透してきた。また、4月に1年対象の図書館オリエンテーションを実施し、図書館の利用を促した。</p> <p>③-1 体育祭・楓祭において、生徒会本部役員がスローガンを設定し、関係部署と連携しながら企画運営を行った。生徒アンケートでは、体育祭後は、86%が体育祭に満足した(昨年度91%)と回答し、楓祭後は、86%が今年度の楓祭に満足した(昨年度85%)と回答した。</p> <p>③-2 体育祭の出席率は97%(昨年度97%)で、楓祭では、1日目、2日目とも出席率は95%(昨年度は1日目95%、2日目96%)であった。(満足感は③-1のとおり)</p>	<p>①生徒による授業評価を踏まえて各教科で振り返りを行い、授業改善につなげる。引き続きユニバーサルデザインを意識した授業づくりを進める。</p> <p>②研究授業等を通して一人一台端末に対応した授業方法の検討を重ねる。生徒だけではなく、各教科・科目等における図書館の積極的利用について教職員へ周知する。</p> <p>③-1 昨年度よりも体育祭の満足度が下がっていたため、生徒がより積極的に学校行事に参加できるように、事前に生徒から意見を集め、ニーズや要望を踏まえた上で学校行事のテーマを設定する。</p> <p>③-2 生徒会が設定したテーマを踏まえた上で、教員間でもコミュニケーションをとりながら行事運営ができるように、役割分担を再検討する。また、生徒の思いや願いに加えて、どのような力を身に付けさせたいかについても共有しながら学校行事の企画・運営をする。</p>	<p>・探究的な学びのテーマを「よりよく生きる」と設定したことはよい。</p> <p>・他校種を見ることにより新たな気付きを得ることができるので、積極的に行うとよい。</p> <p>・ICTを有効活用しており、引き続き視覚に訴えた効果的な指導を行ってほしい。</p> <p>・ICTの活用は国の施策であり、さらに進めてほしい。</p> <p>・小学校でも図書離れが進み、ことばを知らない児童が増えており、引き続き図書館の利用推進等に努めてほしい。</p>	<p>①生徒による授業評価では一定の成果を得た。引き続き「わかる」体験を通して生徒の自己肯定感につなげるため、各教科での授業改善の取組を進める。</p> <p>②校種を問わず、子どもの活字離れが多くみられているため、図書室の利用を促すための取り組みを工夫する必要がある。</p> <p>③学校行事において、何をやるかだけではなく、どのような力を身に付けさせるのかという視点について検討する必要がある。</p>	<p>①引き続き、インクルーシブ教育の充実のためユニバーサルデザインを意識した授業を行う。また、相互の授業見学や研究授業等を通してICTを有効活用した授業方法の検討を重ねる。</p> <p>②現在も学年のクラスルームに投稿している『図書館通信』をより広く周知する。</p> <p>③学校教育目標をもとに、学校行事を通して身に付けさせたい『資質・能力』を明確にする。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①他者を認める寛容の精神と自らを律することができる自己管理能力を育てる。</p> <p>②生徒一人ひとりの課題に対するきめ細かな教育相談体制を充実・発展させる。</p> <p>③部活動・委員会活動やボランティア活動等をおして豊かな人間性や社会性を育てる。</p>	<p>①日常生活習慣を見直し、ルールやマナーを進んで順守する生徒を育成し、安全・安心な学校づくりに努める。</p> <p>②組織的な教育相談体制を築き、一人ひとりの生徒に寄り添う教育相談を実施する。</p> <p>③部活動への関心を高め、加入率の向上および部活動の活性化を図る。</p> <p>③生徒会活動や委員会活動を中心として、生徒主体の学校行事の企画・運営に努める。また、様々な活動をおして、充実した学校生活を送り、白山生としての誇りを大切にする生徒を育成する。</p>	<p>①組織的な生徒指導体制を築き、服装、髪型などのルール、登下校時のマナーに関する指導を実施する。</p> <p>②生活アンケートやサポートドックの内容を職員間で共有し、生徒の様子を正しく把握し、速やかにSCやSSWにつなげる。</p> <p>③-1 部活動の勧誘・広報活動等を充実させ、新入生の部活動加入率を高める。</p> <p>③-2 学校や近隣地域などのボランティア活動等を紹介・支援し主体的な参加を促す。</p>	<p>①昨年と比較して問題行動の数が減少したか。生徒が自らルールやマナーを順守して行動できたか。</p> <p>②支援を必要としている生徒の状況を正確に把握し、適切な支援が行えたか。</p> <p>外部専門機関を正しく活用できたか。</p> <p>③-1 部活動加入率や満足度は向上したか。また、退部率は減少したか。</p> <p>③-2 ボランティア活動を行う機会を増やすことができたか。</p>	<p>①服装、髪型などのルール、登下校時のマナーに関する指導を計画通り行った。</p> <p>②生活アンケートを2回実施し、結果をもとに組織的に事後指導を行った。</p> <p>③-1 生徒会本部役員が中心となって、4月に新入生歓迎会や部活動一斉ミーティングを企画運営し、部活動・同好会への加入率を高めることに努めた。</p> <p>③-2 地域の施設と連携事業で、夏季ボランティアを募集し、短期ボランティア8名、長期(単位申請ができる)ボランティア7名参加した。(昨年度は全体で8名の参加)</p>	<p>①全校生徒が自主的にルールやマナーを順守するには至っていない。今後も支援を継続する。</p> <p>②各学年で教育相談体制を充実させる。支援を必要とする生徒は、今後も専門機関へつなぐ。</p> <p>③-1 1年男子は例年とほぼ同じ加入率であったが、1年女子は例年よりも加入率が低かった。4月の仮入部期間後も継続して部活動・同好会の加入率を向上させるための取組を行う。</p> <p>③-2 今年度は新たにボランティア先を開拓し、ボランティアの機会を増やすことができた。引き続き、多くの生徒がボランティアに参加できるように地域との連携を図りながら新たなボランティア先を開拓する。</p>	<p>・以前より自転車の乗車マナーがよくなっており、生徒指導が行き届いていると感じる。</p> <p>・自転車に関する指導は、保護者へのチラシ等啓発の機会を作ることが大切である。</p> <p>・行事の生徒の様子も笑顔が多く、学校生活を楽しんでいてとてもよい。</p> <p>・各種行事における本校の特色を中学生にもっとアピールできるようにするとよい。</p> <p>・ボランティア活動を実施する際に、事前に知らせがあると協力できる。</p>	<p>①登下校時のマナーについては、地域の方から一定の評価を得た。ただ、新年度から自転車交通違反の規定が変更になることについて、LHRや集会の機会を利用して指導する。交通安全指導に一層力を入れていきたい。遅刻指導の内容について、より効果的なものに改良していきたい。</p> <p>②生活アンケートを通して生徒の状況を正しく把握し、それぞれの生徒に合った支援を行うことができた。</p> <p>③-1 全国的に部活動の縮小がみられている中で、どのように入部を促すのかを考える必要がある。</p> <p>③-2 本校で夏季ボランティアを実施していることが地域に周知されていないため、連携を図る必要がある。</p>	<p>①新年度から自転車交通違反の規定が変更になることについて、LHRや集会の機会を利用して指導する。交通安全指導に一層力を入れていきたい。遅刻指導の内容について、より効果的なものに改良していきたい。</p> <p>②より細かく生徒の状況を把握し、外部の専門機関へつなぐ機会を増やす。</p> <p>③-1 4月に集中している勧誘活動等を、年間を通して定期的実施できる計画を図る。</p> <p>③-2 夏季ボランティアの実習先の新規開拓を図るとともに、周知の方法についても確認を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月17日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「未来に向けて自らをデザインしよう」をスローガンに、高い志を持って目標に向かい努力することによって自己実現を図る指導を行う。 ②美術科の専門性を生かした進路実現を支援する。	①-1 総合的な探究の時間での探究活動を充実させ、自己実現を図る態度を育成する。 ①-2 アセスメントテスト(基礎力診断テスト)を有効活用し、自己有用感の育成や進路実現に向けて支援する。 ②進路ガイダンスを充実させる。	①-1 探究活動を通して、自ら問いを立てて深く考える力を養う。 ①-2 進路適性テストを活用し、自己理解に繋げるよう指導する。成績が向上した生徒の表彰など、自己有用感を高める工夫をする。 ②個々の特性や専門性をふまえた進路ガイダンスを一層充実させる。	①-1 個々の探究テーマを設定し探究活動に積極的に参加できたか。 ①-2 自身の進路実現に向けて動き出す生徒が増えたか。 ②個々の特性や専門性に合った進路ガイダンスを実施できたか。	①-1 1・2年生は修学旅行をテーマとした探究活動、3年は進路に関連した探究活動を行い、発表することができた。 ①-2 基礎力診断テストを活用し学習習慣の定着を図った。特に自分の学力を知ることで自身の進路について考えるきっかけ作りができた。 ②学年や美術科の専門性に合わせた進路ガイダンスを実施し、進学や就職のイメージを具体化することができた。	①-1 次年度は、学校としての探究の柱を設定し、3年間の見直しをもった探究活動を行う。 ①-2 学校全体で目的に沿った指導体制がとれるよう、職員への指導計画書を作成し、生徒の自己有用感が高められる指導体制をとりたい。 ②次年度は職業体験を主としたガイダンスや職業人と対話する機会を設け、早いうちから自己の進路を考えられるようにしていきたい。	・自己肯定感の低い児童生徒が多くなっていると感じているので、自分にとって「よりよく生きる」ことが大切であることを伝えてもらいたい。	①各学年に沿った探究活動を行うことができた一方で、課題設定の仕方や視点について引き続き指導が必要である。今後も総合的な探究の時間において、段階的に自身の進路について考えることができる機会を積極的に作っていききたい。 ②学年ごとに進路ガイダンスを実施することができた。今後も目的意識をもってガイダンスに臨めるよう事前学習を充実させたい。	①探究の全体計画を作成し、職員も生徒も見直しを持って活動できるようにする。 ②進路ガイダンスだけでなく、分野ごとの説明会やインターシップの参加呼びかけなど強化していきたい。
4	地域等との協働	①地域と共にある学校づくりを行い、広い視野を持ち、地域に貢献することによって自己有用感を育む活動を充実させる。 ②地域やPTA等との連携を図り、安全・安心で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域の清掃活動に取り組み、地域に貢献する姿勢と、貢献活動を通じた自己有用感を育む。 ②地域やPTAと連携し、生徒が安全で安心して生活できるよう、環境づくりに取り組む。	①地域貢献デーなどの機会を通じて清掃活動に取り組む。 ②地域やPTAと連携して安全な自転車の乗車について呼びかけるなどの活動を行う。	①清掃活動を通じて、地域貢献が実施できたか。 ②地域やPTAと連携した交通安全の取組ができたか。	①地域貢献デーの取組を美化委員会とボランティア委員会にも広げて計画し、実施した。 ②5月の「自転車マナーアップキャンペーン」で、警察や市の地域振興課、地域代表と共に本校の生徒会・職員・PTAが連携して安全な自転車の乗車について呼びかけるとともに、PTA会報で活動報告を行った。	①清掃活動を通じて、地域貢献が実施できたが、HPなどで校外へ活動を周知できなかった。 写真記録などを残して、HPなどを通じて活動報告を行いたい。 ②「自転車マナーアップキャンペーン」の参加を幅広く周知し、継続して取り組む。	・ボランティア活動は地域とのつながりとして有効であり、計画や成果も地域に発信してもらいたい。 ・自転車のルールが変わるので、マナーキャンペーン等学校からも発信してもらいたい。 ・地域の回覧板にも学校の広報を載せるとよい。	①学年や委員会に範囲を広げて地域貢献デーとして地域清掃を行ったが、活動の周知が不足している。 ②地域やPTAと連携した交通安全の取組ができたが、活動の周知が不足している。	①地域貢献デーの計画を町内会等地域の方と共有し、実施報告まで行う。 ②すぐ等を通してPTAに広く呼びかけ参加を募る。また、町内会等地域の方に実施報告まで行う。
5	学校管理 学校運営	①教員が多様で複雑な生徒の課題に寄り添い向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②在校生や中学生、保護者や地域に向けた情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事の根絶を図る。	①ワークライフバランスの実現を目指し、働き方改革を推進する。 ②在校生、保護者等のみならず、中学生や地域に向けて分かりやすくタイムリーな情報発信を行う。 ③不祥事ゼロプログラムに基づいて職員全体で継続的な不祥事防止対策を実施する。	①-1 グループ業務の見直しと業務分担の適正化を図る。 ①-2 時間外在校時間を縮減する。 ①-3 年次休暇取得を促進する。 ②生徒の取組について、外部の目線に立った分かりやすいHPの運営を行う。 ③不祥事防止研修会を充実させ、職員全体が不祥事防止について当事者意識を持って行動する。	①-1 業務の見直しと業務分担の適正化を行ったか。 ①-2 時間外在校時間を前年度よりも縮減できたか。 ①-3 年次休暇を15日以上取得できたか。 ②外部の目線に立って分かりやすくタイムリーな情報発信ができたか。 ③不祥事防止ゼロを達成できたか。	①-1 前期の振返りを実施し、業務の見直しを行った。 ①-2 80h以上は昨年度15名から5名と減少した。45～79hは、昨年度52名から53名となった。 ①-3 年休取得10日以上は5名、1～9日が63名、0日が5名だった。(事務を除く) ②-1 学校生活や部活動、行事などの生徒の取組についてHPで情報発信することができた。 ②-2 学校説明会について、実施日時をHP上に掲載するだけでなく、HPから直接申し込めるようにした。 ③不祥事防止研修会を計画的に実施した。	①-1 12月までに業務の見直しを完了することができた。 ①-2 引き続き時間外在校時間の縮減を呼び掛けていく。 ①-3 年休の計画的な取得を促していく。 ②-1 更新できていない情報もあるように取り組む。 ②-2 引き続き中学生や地域に向けて分かりやすいHP運営に取り組む。 ③引き続き風通しの良い職場づくりと研修会等を通じて不祥事防止意識を高め、不祥事ゼロを目指す。	・時間外在校時間が減っていることはよい。 ・年休を取りやすい雰囲気作りが大切である。 ・業務をやめていくことも必要である。 ・教員もよりよく生きることが大事で「働かない改革」ではない。 ・70歳でも担任ができるようにするにはどうすればよいかという視点を持つことが大事で「働かない改革」ではない。 ・70歳でも担任ができるようにするにはどうすればよいかという視点を持つとよい。 ・「働けない」ライフステージがあるので、それを含めて「働き方改革」である。 ・コンプライアンスは年々変化しているので、不祥事ゼロプログラムでは、どこが法律に引っ掛かるところなのかを見直すことよい。	①-1業務の見直しを行い業務分担を整理した。 ①-2 80h以上は昨年度15名から5名に、45～79hは昨年度52名から53名となり、一定の成果があった。 ①-3 今年度の年休取得数は15日以上は10名、10～14日は15名であった。 ②-1 生徒の取組についてHPで情報発信することができたが、タイムリーな発信が不足していた。 ②-2 学校説明会の申込をHPから直接申し込めるようにしたが、年間の学校説明会の予定を分かりやすく発信することが不足していた。 ③不祥事防止会議を位置づけ、不祥事防止研修会を充実させ事故ゼロを達成した。	①-1働き方改革推進視点を持ち、さらなる改善を行う。 ①-2 ①-1とともに、職員の意識改革を行う。 ①-3 ワークインライフの意識を醸成し、引き続き計画的に休暇の取得ができるようにする。 ②-1 各グループの職員がHPで情報発信できるようにし、タイムリーに生徒の取組を発信する。 ②-2 学校説明会の1年間の予定を作成し、HPで分かりやすく情報発信する。 ③風通しの良い職場づくりのスローガンを設定し、不祥事防止意識を高め、不祥事ゼロを目指す。